

# 確率統計基礎講義 A

若木宏文

wakaki@hiroshima-u.ac.jp

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/wakaki/lecture/index.shtml>

2019.5.24

# 目次

## 行列 2 次形式統計量の分布

## 行列 2 次形式統計量の分布

# 標本分散共分散行列

## 定義 (標本分散共分散行列)

$\mathbf{X}_1, \dots, \mathbf{X}_n$  を  $E[\mathbf{X}_i] = \boldsymbol{\mu}$ ,  $\text{Var}[\mathbf{X}_i] = \Sigma$  を持つ分布に従う独立な確率ベクトルとし, 標本平均  $\bar{\mathbf{X}} = n^{-1} \sum_{i=1}^n \mathbf{X}_i$  とする. このとき, 標本の散らばりを表す尺度である標本分散共分散行列は

$$S = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (\mathbf{X}_i - \bar{\mathbf{X}})(\mathbf{X}_i - \bar{\mathbf{X}})'$$

で定義される.

注意 3.5.1)  $S$  は  $\Sigma$  の不偏推定量である. つまり  $E[S] = \Sigma$

# Memo

## 行列 2 次形式統計量に関する定理 1

定理 3.5.1  $\mathbf{X}_1, \dots, \mathbf{X}_n \stackrel{i.i.d.}{\sim} N_p(\boldsymbol{\mu}, \Sigma)$  とすると,  
 $V = (n - 1)S \sim W_p(n - 1, S)$

## 正規確率行列の特性関数と補題

**特性関数**  $X = (X_{ij})$  を  $p \times n$  行列で, その成分  $X_{11}, X_{12}, \dots, X_{pn}$  は独立に標準正規分布に従うとする. このとき,  $X$  の特性関数は

$$C_X(T) := E[\exp\{i \operatorname{tr}(T'X)\}] = \exp\left\{-\frac{1}{2}\operatorname{tr}(T'T)\right\}$$

となる. ただし,  $T = (t_{ij})$  は  $p \times n$  行列である.

**補題**  $X = (X_{ij})$  を  $p \times n$  行列で, その成分  $X_{11}, X_{12}, \dots, X_{pn}$  は独立に標準正規分布に従うとする.  $H$  を  $n \times q$  定数行列で,  $H'H = I_q$  とする. このとき  $Y = XH$  の  $pq$  個の成分は互いに独立に標準正規分布に従う.

# Memo



## 行列 2 次形式統計量に関する定理 2

定理 3.5.2  $\mathbf{Z}_1, \dots, \mathbf{Z}_n \stackrel{i.i.d.}{\sim} N_p(\mathbf{0}, \Sigma)$ ,  $\mathbf{Z} = (\mathbf{Z}_1, \dots, \mathbf{Z}_n)'$  とおく.  $A$  を  $n$  次対称なべき等行列とすると,  $\mathbf{Z}'A\mathbf{Z} \sim W_p(f, \Sigma)$  である. ただし,  $f = \text{tr}(A)$  である.

## 行列 2 次形式統計量に関する定理 3

定理 3.5.3  $\mathbf{Z}_1, \dots, \mathbf{Z}_n \stackrel{i.i.d.}{\sim} N_p(\mathbf{0}, \Sigma)$ ,  $\mathbf{Z} = (\mathbf{Z}_1, \dots, \mathbf{Z}_n)'$  とおく.  $A, B$  を  $n$  次対称なべき等行列で,  $\text{tr}(A) = a, \text{tr}(B) = b, AB = O$  とする. このとき,  $\mathbf{Z}'\mathbf{A}\mathbf{Z}$  と  $\mathbf{Z}'\mathbf{B}\mathbf{Z}$  は独立である.

## 行列 2 次形式統計量に関する定理 4

定理 3.5.4  $Z_1, \dots, Z_n \stackrel{i.i.d.}{\sim} N_p(\mathbf{0}, \Sigma)$ ,  $\mathbf{Z} = (Z_1, \dots, Z_n)'$  とおく.  $A$  を  $n$  次対称なべき等行列,  $\mathbf{b}$  を  $A\mathbf{b} = \mathbf{0}_n$  を満たす  $n$  次元ベクトルとする. このとき,  $\mathbf{Z}'A\mathbf{Z}$  と  $\mathbf{Z}'\mathbf{b}$  は独立である.

## 行列 2 次形式統計量に関する定理 5

定理 3.5.5  $\mathbf{X}_1, \dots, \mathbf{X}_n \stackrel{i.i.d.}{\sim} N_p(\boldsymbol{\mu}, \Sigma)$  のとき,  $S$  と  $\bar{\mathbf{X}}$  は独立である.

## 行列 2 次形式統計量に関する定理 6

定理 3.5.6  $\mathbf{Z}_1, \dots, \mathbf{Z}_n \stackrel{i.i.d.}{\sim} N_p(\mathbf{0}, I_p)$ ,  $\mathbf{Z} = (\mathbf{Z}_1, \dots, \mathbf{Z}_n)'$  とおく.

$$V = \mathbf{Z}'\mathbf{Z} = \begin{pmatrix} V_{11} & V_{12} \\ V_{21} & V_{22} \end{pmatrix},$$

$$V_{11.2} = V_{11} - V_{12}V_{22}^{-1}V_{21}$$

とする. ただし,  $V_{11}$  は  $q \times q$  である. このとき  $V_{11.2}$  と  $V_{22}$  は独立で,  $V_{11.2} \sim W_q(n - p + q, I_q)$ ,  $V_{22} \sim W_{p-q}(n, I_{p-q})$  である.

# Memo

## 逆ウィシャート分布の期待値 (再掲)

$V \sim W_p(n, \Sigma)$  とする.  $n - p - 1 > 0$  ならば  
 $E[V^{-1}] = \Sigma^{-1} / (n - p - 1)$

## レポート問題 5

ウィシャート分布の再生性を示せ.

再生性:  $V_1, V_2$  は独立で,  $V_1 \sim W_p(n_1, \Sigma)$ ,  $V_2 \sim W_p(n_2, \Sigma)$  ならば  $V_1 + V_2 \sim W_p(n_1 + n_2, \Sigma)$